

## 地域資源で雇用創出プロジェクト

(和紙産業活性化支援事業、小川町元気な農業応援事業、移住サポートセンター開設)

—No.47 小川町—

### 【事業の内容】

平成 26 年にユネスコ無形文化遺産に登録された「細川紙の手漉和紙技術」。この生産に携わる生産者の育成（技術指導・場の確保）、生産量の拡大（原材料の安定供給）、商品開発（新商品の開発）、販路の拡大（ユネスコ3紙で連携し販路を拡大）を実施及び支援していきます。

また、当町の有機農業を一部の地域から町内全体へ展開し、稼げる農業としての仕組みを確立するため、新規就農者や新商品（加工品）製造者への支援、生産性の向上、ブランド化を推進します。また、これらを効率的かつ効果的に実施していくための計画を策定します。

また、小川町に移住したいという希望者を離さず、定住に結びつけるため、移住希望者に対する総合的な窓口を設置します。また、和紙産業や有機農業とも連携し、移住希望者に対して、空き家バンクの情報や町の施策、しごと等の情報も提供できる体制を確立し、移住希望者に対するワンストップサービスを可能にします。

### 【事業年度】

平成 28 年度

### 【予算額(千円)】

25,601千円

### 【財源】

地方創生加速化交付金（国）、ふるさと創造資金（県）、一般財源（町）

### 【事業実施に至った背景・経緯】

本町の伝統産業である小川和紙、その中でも最高級とされる細川紙の手漉<sup>す</sup>き和紙技術が平成 26 年 11 月にユネスコ無形文化遺産に登録されました。細川紙は世界に誇る日本を代表する手漉<sup>す</sup>き和紙であり、技術の継承はもとより、和

紙産業活性化のために後継者の育成が必要です。手漉き和紙技術者協会や和紙工業協同組合との連携により、後継者の育成のための環境を構築し、和紙の原材料となる楮(こうぞ)の安定的な生産・供給体制の確立が求められています。また、有機農業については、本町の下里地区が2010年11月に農林水産祭「むらづくり部門」で天皇杯を受賞しました。この地域資源に磨きをかけるとともに、稼げる農業としての仕組みづくりが求められています。

また、当町に訪れる移住希望者への空き家バンクや当町の施策などの情報提供をワンストップで行い、前述の和紙産業活性化支援事業や小川町元気な農業応援事業と連携しながら、しごとの創出と定住の促進という相乗効果を生み出していく必要があります。

## 【事業のPRポイント】

- ・ 伝統産業である小川和紙、その中でも最高級とされる細川紙の手漉き和紙技術は、ユネスコ無形文化遺産に登録されています。
- ・ 農林水産祭「むらづくり部門」で天皇杯を受賞した有機農業集落があります。
- ・ 和紙の生産拡大支援を核に、関連する加工・販売を集中的に支援します。
- ・ 小川町元気な農業（おがわ型農業）における新規就農者を育成し、「おがわ野菜」の生産・販売の拡大とブランド力向上を集中的に支援します。

## 【今後の展開】

2020年東京オリンピック・パラリンピックを見据えた中で、新たな商品開発や国内外への力強いPRを行っていきたいと思います。

また、学卒者から子育て世代、シルバー世代までの幅広い世代を呼び込み、本町の地域資源(小川和紙と有機農業)を最大限生かした雇用を創出しながら、将来的には海外への商品輸出を目指す中で、更なる雇用の拡大につなげたいと考えています。

## 【参考資料】

地域資源で雇用創出プロジェクト概要

〔 連絡先 〕

産業観光課 商工観光グループ

0493(72)1221(内線231、232)

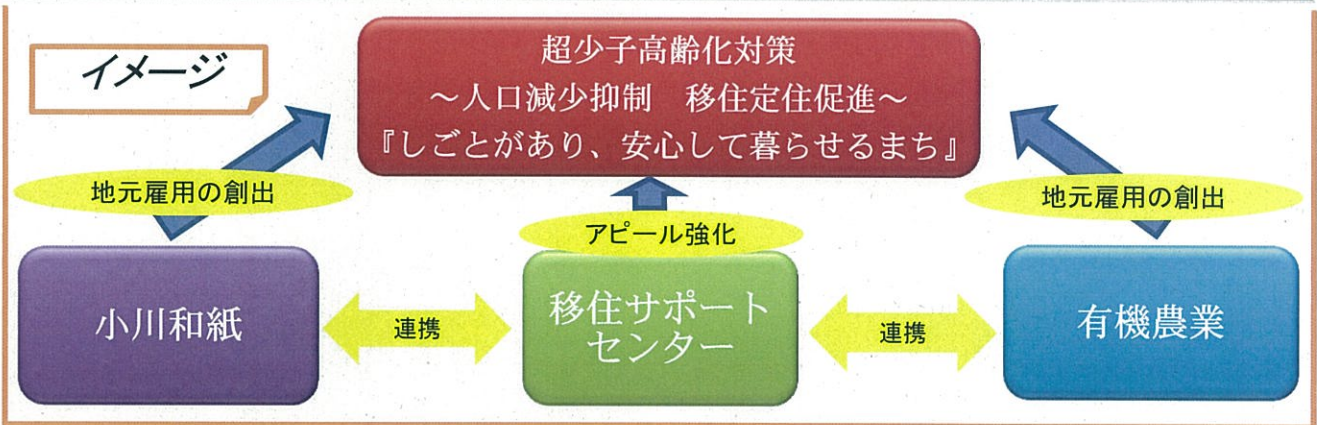
# 地域資源で雇用創出プロジェクト

## 小川町の現状と課題

当町の平成26年度の合計特殊出生率は0.92、平成27年度の65歳以上割合は30.3%、婚姻件数も年々減少傾向にあり、このまま漫然と対策を立てないままでは、未曾有の超少子高齢化へと突入してしまう状況である。超少子高齢化へ歯止めをかけ、人口減少を抑制するため、出生率の増加と人口流出の防止が喫緊の課題となっている。その課題を解決するためには、地元で働ける場所の創出や町の魅力発信を通じて転入者を呼び込む政策が必要となっている。

## 事業による効果

地域資源である小川和紙や有機農業をさらに活性化することにより、地元の仕事が創出される。仕事が創出されると、ひと（特に若者）が集まり、そこで出会いが生まれ婚姻件数が増加する。仕事を求めて町に来るひとに対し、移住の支援をするため、空き家バンクや移住コーディネーターを配したサポートセンターを設置する。しごとを切り口として定住促進へとつなげる政策を連携して実施することにより、超少子高齢化における地域の課題を解消し、地域内での好循環を生み出す。



## 実現に向けた施策

### 和紙産業活性化支援事業

平成26年にユネスコ無形文化遺産に登録され、世界的にも知名度を高めた「細川紙手漉技術」。この和紙という貴重な地域資源を活かし、その生産に携わる生産者の育成（技術指導・場の確保）、生産量の拡大（原材料の安定供給）、商品開発（新商品の開発）、販路の拡大（ユネスコ3紙で連携し販路を拡大）を実施及び支援していくことにより、直接的にしごとの創出を図る。

### 小川町元気な農業応援事業

当町の下里地区の有機農業の取組みは、天皇杯を受賞し、さらに平成26年度には、天皇皇后両陛下が行幸啓された。こうした有機農業の取組みを貴重な地域資源と捉え、それを拡大していくことで稼げる農業としての仕組みを確立し、しごとを創出する。この有機農業を一部の地域から町内全体へ展開し、稼げる農業としての仕組みを確立するため、新規就農者や新商品（加工品）製造者への支援、生産性の向上、ブランド化を推し進めていく。またこれらを効率的かつ効果的に実施していくための計画を策定する。

### 移住サポートセンターの開設

しごと創出の取り組みにより、小川町に移住したいという希望者を離さず、定住に結びつけるため、移住希望者に対する総合的な窓口を設置。また、有機農業や和紙産業とも連携し、移住希望者に対してしごとの情報を提供する。加えて、空き家バンクの情報や町の施策情報も提供できる体制を確立することにより、移住希望者に対するワンストップサービスを可能にする。

## 官民連携

- ・細川紙技術者協会
- ・小川和紙工業協同組合
- ・東秩父村、岐阜県美濃市、島根県浜田市 など

- ・小川町有機農業推進協議会
- ・有機農作物を使った新商品の開発や出店 など

- ・NPO法人
- ・町内不動産業者
- ・各種お祭り・イベント実行委員会 など